

ジョークサロン11月度例会

1 武勇伝コロナインフル右左

*得意げに話す私の友人。大丈夫なのかな

2 山際不手際瀬戸際往生際

*山際大志郎経済再生担当相。相次ぐドミノ辞任

3 物価高開けてビックリ嵩（かさ）がない

*マーガリン等、ハコモノの中身



4 値が上がる上がる上がるで音（ね）を上げる

5 コンビニへ行けない国になりました

*客数減のなか、売上げ増を図り、コンビニ各社の成城石井化が進む

6 米配布ターゲットで軍事費に

*東京都の生活困窮者支援、職員の電力節約

7 夢と消え勝利のゴール カッタール

*W杯開幕戦。エクアドル 2対0 カタール

8 ウォークラリー欲に釣られて町歩く

*健康より景品。大田区のマスコットキャラ・ハネピヨンの海苔とティッシュを貰う



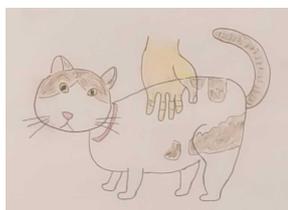
09 幻視画の明るき命の認知症

* レビー小体型認知症の当事者による「三橋昭 幻視原画展」を見に行きました。

天声人語

東京都大田区に住む元区立図書館長、三橋昭さん(73)は朝、目覚める寸前に不思議なものを見る。洗濯ハンガーにぶらさがる小人。花びらを吹き出すエアコン。反転したSとKの文字。どれも幻視である▼「昼寝では見えません。朝まだウトウトしている時にだけ現れます」。最初に見えたのは69歳の冬。目の病気を疑ったが、家族には内緒にした。だが大病院でレビー小体型認知症と診断され、気持ちが決まる。せつかく見えた幻視だ、絵に描きとめてやるか、と▼巨大な靴を頭にかぶったガイコツ。逆立ちした平仮名の群れ。8本足の馬。ほとんどは黒の線画だが、カラーの日もある。若いころ映画制作に携わった経験から、浮かんだ像を正確に記憶しようとするという▼主治医から絵の出版を勧められ、『麒麟模様の馬を見た』をおとしの夏、刊行した。講演を頼まれ、絵の個展も開かれた。幻視画はカレンダーにもなった。「幻視のおかげで退屈知らずの日々を送っています」▼ご自宅で原画を拝見して考えたのは、介護施設で暮らす認知症のわが父のこと。親族の顔がわからなくなったかと思うと、直近の国政選挙を堂々と論じます。これまで家族としてとまごうばかりだったが、病気への見方が変わった▼ホンワカとした三橋さんの幻視世界。そこには人と動物の境がなく、時空に壁がない。想像力が自在にはばたく作品群から、認知症と向き合う生の奥深さ、そして豊かさを学ぶ。

2022・9・7



10 穴守の橋を渡って舞い上がれ！

* 穴守橋の高欄（転落防止目的の防護柵）には、14機の飛行機がデザインされています。先人たちの空への憧れをたどり橋を渡れば羽田空港が眼前に広がります。近くにはジャンボジェットの新ミレター機も保存されています。

